

主な事業概要

(3)-③生産性の向上や高付加価値化等による力強い 農林水産業の確立



SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS
2030年目標
持続可能な開発目標

環境こだわり農業のさらなる推進・ブランド力強化【予算額572百万円】



現状と課題

- 環境こだわり農産物は2017年度(H29)には15,609haまで広がり、水稻では45%の面積で取組実施
- 琵琶湖保全再生法、SDGsの導入、世界農業遺産認定にむけた取組を踏まえ、更なる推進が必要。
- 環境こだわり米の販売は一定進んできたが、生産量に対して流通量は少なく、認知度も低い。
- 米政策の見直し等により、産地間競争は激化することが予測され、産地競争力の強化が喫緊の課題
- 環境保全型農業直接支払交付金について、2020年度(H32)から国の制度見直しがある。



農政水産部 食のブランド推進課(内3895)
農業経営課(内3834)
畜産課(内3853)
農村振興課(内3963)

重点施策1：環境こだわり農業の一層の拡大

環境こだわり農業支援事業 538.3百万円
(うち環境保全型農業直接支払交付金 507.9百万円)

環境こだわり農産物の生産とあわせて地球温暖化防止や生物多様性保全に取り組む場合に市町とともに支援

【重】(新)「環境こだわり」家畜ふん堆肥活用推進事業 2.1百万円

供給者と需要者のマッチング、散布体制の整備を行い、耕畜連携による家畜ふん堆肥を活用した環境こだわり農産物の生産拡大を図る。

成果目標	現状(2017:H29)	目標(2022:H34)
環境こだわり米の作付面積割合	45%	50%以上

重点施策2：環境こだわり農産物の有利販売・流通拡大に向けた新たな取組

(新)環境こだわり農産物流通拡大事業 5.0百万円

環境こだわり農産物の有利販売・流通拡大を目指し、「環境こだわり米コシヒカリ」の集荷・流通促進や高付加価値販売のための取組等に対して支援

(新)近江米生産・流通ビジョン推進事業のうち
攻めの近江米PR支援事業 10.0百万円

近江米生産・流通ビジョンにおいて家庭向けとして位置づけられる環境こだわり米の「みずかがみ」、「コシヒカリ」のCM放映経費助成



成果目標		現状(2017:H29)	目標(2022:H34)
環境こだわり米の作付面積	みずかがみ	2,575ha	3,000ha以上
	コシヒカリ	5,148ha	6,000ha以上
野菜で環境こだわり農産物として生産拡大を図る重点推進品目数		-	3品目以上

重点施策3：環境こだわり農業の象徴的な取組としてオーガニック農業等を推進

【重】(新)オーガニック米生産拡大事業 4.5百万円

オーガニック米の生産拡大に向け乗用型水田除草機の導入支援、有機JAS認証取得促進、収量・品質の安定化に向けた栽培技術の普及を行う

【重】(新)オーガニック米等販路開拓事業 6.3百万円

【重】(新)魚のゆりかご水田米販路開拓事業 1.6百万円

関係団体と連携し、需要が見込める首都圏等で、統一デザインの米袋を用いたオーガニック近江米や、魚のゆりかご水田米の販路開拓を進める。

【重】「近江の茶」オーガニックブランド産地育成事業 3.9百万円

海外への市場開拓を進めるとともに、ブランド力を持った「近江の茶」産地の育成を図るため、オーガニック栽培による茶生産の取組を支援

成果目標	現状(2017:H29)	目標(2022:H34)
オーガニック農業(水稻)取組面積	247ha	420ha
オーガニック農業(茶)取組面積	7ha	12ha
魚のゆりかご水田取組面積	131ha	250ha

新 環境こだわり農産物流通拡大事業

[事業費] 県費4,950千円(H31)

現状および課題

- 【現状(これまでの成果)】
- 環境こだわり農産物の認証面積は15,609ha(平成29年度)まで広がり、水稲では45%の面積で取組実施。
 - 全量環境こだわり農産物である「みずかがみ」は2,575ha(平成29年度)に拡大、環境こだわり米コシヒカリの認証面積は5,148ha(2017(H29)年度)となっている。
 - 環境こだわり農産物の園芸品目(野菜・果樹)の面積は平成20年の463haをピークに、ピーク時の52%の243haとなっている。
- 【問題点と課題】
- 市場において慣行栽培と同程度の価格で取り扱われる事例が多く、生産量に対して、環境こだわり農産物として取り扱われる量が少ない。
 - 近江米ビジョンで家庭用としてみずかがみとコシヒカ리를環境こだわりで進めることとしているが、環境こだわり米コシヒカリとしての流通量が少ない。
 - 県民の環境こだわり農産物に対する認知度が低い(平成30年度：45.7%)。

事業内容

①環境こだわり米コシヒカリ、みずかがみの統一プロモーション【4,650千円】

環境こだわり米コシヒカリの仕分を徹底し、京阪神に新商品として広く販売し、みずかがみとセットで統一プロモーションを実施する。(別事業で環境こだわり米コシヒカリとみずかがみのテレビCM実施予定)

(1)コシヒカリ集荷促進のための専用玄米袋作成に対する助成【600千円】

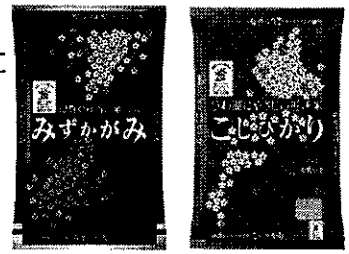
- 助成対象：集荷業者
- 助成単価：補助率1/3以内

(2)コシヒカリ統一デザイン米袋流通促進に対する助成【2,500千円】

- 統一デザイン米袋(ロール袋)の作成に対する補助
- 助成対象：米卸業者
- 補助率：1/3以内

(3)販促用PR資材の作成【1,550千円】

- それぞれの米袋デザインをもとにした販促用資材を作成。
ミニのぼり、ポスター等



平成30年産以降の品種別・用途別の作付方向	
家庭用	業務用
高←価格→低	価格→低
みずかがみ プレミアム栽培	環境 こだわり 栽培
みずかがみ	
おいがこ水田 栽培	環境 こだわり 栽培
	環境 こだわり 栽培

みずかがみ コシヒカリ その他品種

※近江米・生産流通ビジョン(抜粋)

②環境こだわり野菜高付加価値販売プロジェクト【300千円】

重点推進品目を定め、量販店等に流通させるとともにPRを行うことで、高付加価値販売を目指すプロジェクトを実施

- (1)事業主体 滋賀県園芸農産振興協議会
- (2)補助金額 300千円(定額)
- (3)内容
 - ①統一パッケージの作成(補助率1/3以内)
 - ②PR資材作成費



事業実施による効果

- ◆環境こだわり米(みずかがみ・コシヒカリ)の作付面積・流通量の拡大
- ◆一定ロットを取りまとめ流通・販売することによる有利販売の促進
- ◆一体的なPRによる「優位」販売、環境こだわり農産物の認知度向上

事業目標

- ◆環境こだわり米(みずかがみ・コシヒカリ)の作付面積
 - みずかがみ 2,575ha(2017:H29) → 3,000ha以上(2022:H34)
 - コシヒカリ 5,148ha(2017:H29) → 6,000ha以上(2022:H34)
- ◆環境こだわり農産物として生産拡大を図る重点推進品目数(野菜)
 - 0品目(H30) → 3品目以上(H34)

新 しがの園芸産地スケールアップ促進事業 (H31~H33)

【事業費 33,800千円】

【現状および課題】

- 力強い水田農業を展開するため、都市近郊の立地条件をいかした、水田を活用した野菜等の園芸作物産地の育成を進めている。
- 卸売市場や加工業務野菜の実需者からは、生産拡大とともに安定出荷が求められている。また、農産物直売所においても、農産物の安定供給や誘客につながる取組が求められている。
- さらなる生産拡大等の取組を進めるには、労働力の不足、機械能力の不足による非効率な作業、新たな販路開拓等の、産地が抱えるボトルネックとなっている課題の解決が必要。

【目指す姿】(目的)

- 園芸作物を取り入れた力強い持続的な水田農業の展開
- 卸売市場等、実需者と連携した広域型産地の育成
- 担い手の育成確保、生産・販売指導まで一貫した産地体制の構築
- 新鮮な農産物の県民への安定供給、農産物直売所への誘客拡大

【目標】

- 園芸作物の産出額
2016年 148億円 → 2021年 158億円



1. しがの園芸産地スケールアップ促進事業

○産地拡大戦略事業 (定額) (1,800千円)

園芸産地の拡大強化に向けた戦略策定の支援

① 県域推進 (滋賀県園芸農産振興協議会 1,000千円)

- ・実需者と産地のマッチングおよび販路開拓 (首都圏含む)
- ・複数のJAが連携した品目別等の専門部会の設置による活動強化
- ・地域協議会と連携した広域産地育成に向けた取組の強化



② 産地コンソーシアム支援

- (生産者、関係機関、実需者の参画による戦略策定 150千円×2産地)
- ・技術の導入・改善の実証、先進事例調査の実施等
- ・実需者が参画した産地拡大に向けた戦略の策定

③ 果樹産地活性化支援

- (果樹産地の発展に向けた戦略の策定 250千円×2産地 (1産地2か年))
- ・果樹栽培者の育成確保方策等の調査検討およびその仕組みづくり

○産地拡大実践事業 (1/3以内) (22,000千円)

戦略に基づく産地拡大のシステム構築等への支援
(補助金の上限 3,000千円)

① 体制整備による産地拡大 (事業費7,500千円×1/3×4か所程度)

- ・コントラクター方式の導入、ほ場の団地化、新規栽培者確保、観光農園の整備等に必要となる体制整備
(作業受託体制に必要な機械、トレーニングハウス等の生産施設等の導入支援)



キャベツ収穫機

② 生産性向上による産地拡大 (事業費6,000千円×1/3×6か所程度)

- ・労働時間の削減や収量向上によるシステム体制整備
(高性能機械、出荷調製機械、環境制御設備等の導入支援)



果樹の雨よけ施設

2. 新しい園芸産地づくり支援事業 (国庫)

(定額、1/2以内) (5,000千円×2産地) ※事業要件 ①水田における園芸作物の生産、②契約取引計画の策定 (産地規模の50%以上の契約取引)

- ・水稻から園芸作物への転換を図り、実需者と連携し一定規模以上の本格的な園芸産地を育成する取組を支援
(産地の合意形成、品目選定や出荷先開拓、排水対策等の栽培技術確立に必要な機械・施設のリース導入支援)

重

新

オーガニック米生産拡大事業

(4,500千円)

1. 現状と課題

- ・オーガニック農業(水稲)の取組面積は247haで水稲作付け面積の0.8%(2017:H29)。
- ・20～30haの水稲経営で、乗用型水田除草機を用いることで4～5haをオーガニック米に切り替えることを想定しているが、販路開拓を進めている段階で販売が確実には見込めない状況であることや、新技術の導入を伴うことから、一気に大面積で取り組むことは困難なため、機械導入に踏み切れない。
- ・販売上必要となる有機JAS認証について、認証費用に加え、周辺との緩衝地帯の設置等の手間もかかるため、認証取得に抵抗感がある。
- ・オーガニック米生産がどのようなものか知らない生産者が多い。

平成30年度の取組と成果

- 乗用型水田除草機実演会(5～6月 県内6ヶ所) 150名参加
- オーガニック栽培の手引き作成(試験研究や実証圃の成果を踏まえた、乗用型水田除草機をキーテクノロジーとする栽培体系)
- オーガニック栽培研修会(12月19日) 130名参加 (参加者の声:「今後の情報提供を希望」、「販路があれば拡大したい」)
- 県内の有機JAS検査員の育成研修 3名受講

2. 推進対策

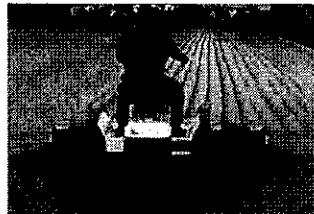
オーガニック米の生産拡大を図るため、乗用型水田除草機の導入支援、有機JASの認証取得促進、普及活動を行う。

①乗用型水田除草機導入支援

オーガニック米の省力安定生産に不可欠となる乗用型水田除草機の導入費助成

補助対象:新規または取組拡大農業者等
補助率:3/10以内(上限額 600千円)

3,600千円



②有機JAS認証取得促進

「オーガニック」の表示に必要な有機JAS認証取得費用を助成(1年目のみ)

補助対象:新規認証取得農業者
補助率:1/2以内(上限額 50千円)

450千円



認定機関名

③生産者への普及活動

- ・乗用型水田除草機を使った実演会
- ・取組ほ場への看板設置(啓発用)
- ・研修会(技術、有機JAS制度)
- ・現場における改善技術の調査研究



450千円

事業スケジュール

	2019(H31)	2020(H32)	2021(H33)	2022(H34)
乗用機械除草機導入台数	6台	6台	6台	6台
有機JAS認証新規取得件数	9件	9件	9件	9件
生産者への普及啓発	→			

成果目標

	現状(2017:H29)	目標(2022:H34)
オーガニック農業(水稲)取組面積※	247ha	420ha

※将来的にはオーガニック農業(水稲)でも日本一を目指す

新 オーガニック米等販路開拓事業 (食のブランド推進課 6,250千円)

1. 現状と課題

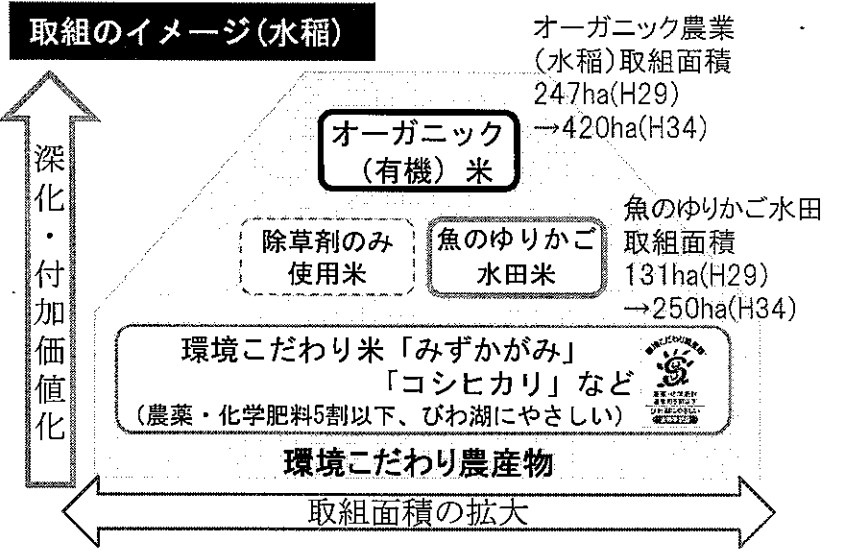
オーガニック米、魚のゆりかご水田米の生産拡大を図るためには、生産コストに見合った価格で販売できる販路の開拓が必要。

【オーガニック米】

- ・オーガニック農業(水稲)の取組面積は247haで水稲作付け面積の0.8%(H29)
- ・生産コストが高く、生産量も少ないことから、流通形態は生産者による直販が中心となり、既存の量販店等への流通は少ない。
- ・県民のオーガニック農産物の認知度は49.4%あるが、4割高以上の価格帯での購入意向は2.8%に留まる(H30県政世論調査)
- ・一方、オーガニック農産物取扱量を拡大する計画(現状1.5%を5%に拡大)を持つ大手量販店や、店舗拡大を進めるオーガニック専門店が首都圏で出てきている。

【魚のゆりかご水田】

- ・魚のゆりかご水田米については、ストーリー性や地域の特性を加味したPRを通じて、首都圏での新たな販路開拓が必要。



平成30年度の取組と成果	○オーガニック商談会への出展(横浜8月、東京9月、大阪10月、健康博1月)・・・本取組に関心をもつ業者多数(量販店、生協、米加工業者等)
	○試験販売に向けた業者との調整・・・玄米 ^{ろっ} パックライス、蠟カット玄米、ここ滋賀の活用、大口の流通体制の検討(精米をどこですか?)
	○「オーガニック近江米」の統一米袋デザイン作成(3月完成予定)

2. 推進対策

大口需要が見込まれる首都圏において、関係団体と連携のもとオーガニック米等の県域規模での新たな販売ルートを確立し、滋賀ならではの高付加価値米としての市場開拓を進める。

①首都圏販路開拓事業
(事業主体:近江米振興協会、定額補助)

- ・首都圏における販路開拓マネージャーの設置
- ・オーガニック商談会への出展
- ・生産数量・企画連携会議の開催
- ・オーガニック米等のテスト販売実施
- ・「ここ滋賀」における情報発信

5,500千円


②統一米袋デザイン利用助成事業

- ・オーガニック米のブランド力向上に向け、県が作成した統一デザインの米袋の作成を支援
- ・補助対象:卸売事業者等
- ・事業費 :750千円×1/3×3事業者

750千円

【関連事業】
魚のゆりかご水田米販路開拓事業
【農村振興課 1,600千円】

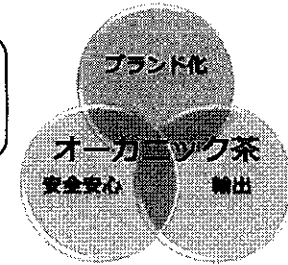
- ・首都圏の生協、流通事業者向け現地ツアーの開催
- ・首都圏における説明会等の開催



創継「近江の茶」オーガニックブランド産地育成事業 (H30~H31) 【事業費 3,850千円】

事業のポイント

リーフ茶需要の減少による国内の茶マーケットの縮小と産地間競争に「近江の茶」が勝ち残るため、海外への市場開拓を進めるとともに、ブランド力の向上が必要であり、これらに対応しうる有機栽培の生産への取組を支援する。



「近江の茶」有機栽培・輸出の現状と課題

- ◆有機栽培は甲賀市朝宮・土山、東近江市政所で行われ、H29年の取組面積は約7ha。
- ◆H29から米国向けプロモーションを開始し、H30には米国業者による産地視察・商談会が実施されるなど試験的輸出に向けて動きがみられる。
- ◆H28には輸出向けに21tの荒茶が生産されているが、輸出相手国により農薬残留基準が異なり他の輸出先への融通性が低いこと等により、「近江の茶」としての輸出量は3t程度となっている。主な輸出先は台湾、EU等。(農業経営課調べ)
- ◆輸出向けの茶生産において、有機栽培を行うことで残留農薬基準をクリアすることが可能。
 - 【輸出の動向】◆EUや米国では有機栽培茶が求められている。EUへの輸出量に占める有機JASの割合は75%。
 - ◆米国では健康志向により低カフェイン茶のニーズも高い。

ブランド産地育成への対策

1. 「近江の茶」有機栽培技術の確立 (茶業指導所) (2,500千円)

- 有機JAS認証に適合する茶園管理の技術の確立
- 有機栽培茶の安定生産技術(病害虫防除体系および有機質肥料施肥技術)の確立

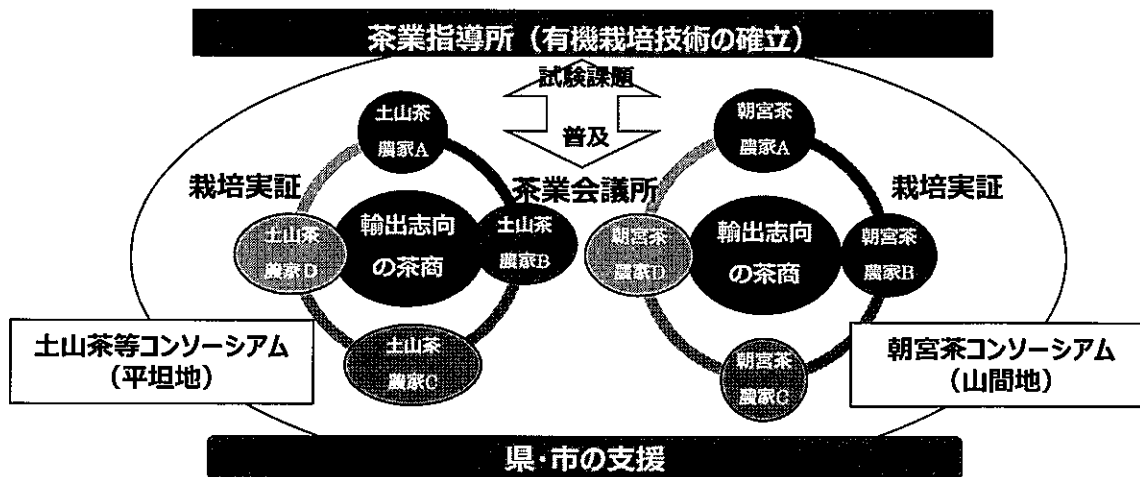
2. コンソーシアムの活動支援 (滋賀県茶業会議所) (1,200千円)

- 有機栽培の生産実証
- 有機栽培茶の品質評価(成分分析、残留農薬分析)
- 有機茶栽培茶の試験販売

3. 有機栽培茶の生産拡大 (滋賀県茶業会議所) (150千円)

- 有機栽培技術研修会
- 先進地視察研修会等の実施

スピード感を持って実施するため、技術確立と現場実証を一体的に推進



事業効果

有機JAS認証の「近江の茶」の生産割合を全国平均(3%)に相当する栽培面積6.4ha以上(荒茶生産量約20t以上)を目指し、輸出や首都圏での販売に対応したブランド産地となる。

政策目標 農畜水産物輸出戦略

茶の輸出目標(「近江の茶」輸出量):
0.4t(2014年) ⇒ 10t(2020年)

環境こだわり米こしひかり新パッケージによる試験販売について

1. 目的

環境こだわり米としての生産が最も多いコシヒカリについて、相当量は一般米として流通している実態がある。

このため、環境こだわり米と表示し、販売されるコシヒカリを大幅に拡大することを目指し、試験的なプロモーションを行う。

2. 新パッケージの作成

みずかがみと調和の取れたデザインを作成しました。



3. 環境こだわり米こしひかりデビューイベント

イベント名 環境こだわり米こしひかりデビューイベント

主催 滋賀県米消費推進連絡協議会

実施期間 平成31年(2019年)1月19日(土)10時00分～14時00分

実施場所 モリープ(アルプラザ平和堂守山店)

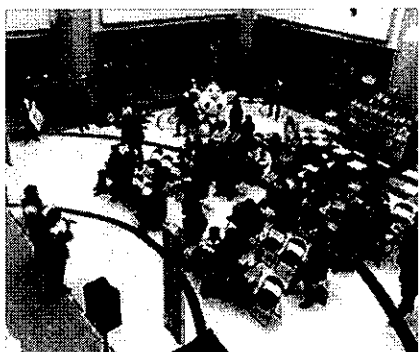
MC ファミリーレストラン(近江米PR副隊長、滋賀に住みます芸人)

イベント概要 ファミリーレストランステージ

午前の部:11時00分～12時00分 午後の部:13時00分～14時00分

◆環境こだわり米アンケート◆環境こだわり米の重さ当てクイズ

◆環境こだわり〇×クイズ◆ひと口おにぎり配布



4. 環境こだわり米アンケート結果（アンケート回答者 272 名）

<p>Q1 環境こだわり米こしひかりのパッケージを見てどのような印象を持ちましたか？ (複数回答)</p>	<table border="1"> <thead> <tr> <th>印象</th> <th>割合</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>高級感がある</td> <td>17%</td> </tr> <tr> <td>環境にやさしそう</td> <td>45%</td> </tr> <tr> <td>美味しそう</td> <td>36%</td> </tr> <tr> <td>印象に残る</td> <td>19%</td> </tr> <tr> <td>目立つ</td> <td>16%</td> </tr> <tr> <td>あまり良い印象を受けない</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td>6%</td> </tr> </tbody> </table>	印象	割合	高級感がある	17%	環境にやさしそう	45%	美味しそう	36%	印象に残る	19%	目立つ	16%	あまり良い印象を受けない	0%	その他	6%
印象	割合																
高級感がある	17%																
環境にやさしそう	45%																
美味しそう	36%																
印象に残る	19%																
目立つ	16%																
あまり良い印象を受けない	0%																
その他	6%																
<p>Q2 環境こだわり農産物を知っていますか？</p>	<p>※知っている ※知らない</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>回答</th> <th>割合</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>※知っている</td> <td>48%</td> </tr> <tr> <td>※知らない</td> <td>52%</td> </tr> </tbody> </table>	回答	割合	※知っている	48%	※知らない	52%										
回答	割合																
※知っている	48%																
※知らない	52%																
<p>Q3 新発売の「環境こだわり米こしひかり」 5kgをどれくらいの価格帯であれば買いたいですか？</p>	<p>※普段買っているこしひかりと同じ価格なら買いたい ※100円程度価格が上がっても買いたい ※価格が上がるなら買いたくない</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>回答</th> <th>割合</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>※普段買っているこしひかりと同じ価格なら買いたい</td> <td>66%</td> </tr> <tr> <td>※100円程度価格が上がっても買いたい</td> <td>25%</td> </tr> <tr> <td>※価格が上がるなら買いたくない</td> <td>9%</td> </tr> </tbody> </table>	回答	割合	※普段買っているこしひかりと同じ価格なら買いたい	66%	※100円程度価格が上がっても買いたい	25%	※価格が上がるなら買いたくない	9%								
回答	割合																
※普段買っているこしひかりと同じ価格なら買いたい	66%																
※100円程度価格が上がっても買いたい	25%																
※価格が上がるなら買いたくない	9%																

「日本一！環境こだわり米」キャンペーンについて

1. 概要

県内および京阪神を中心とした県外の消費者に、「環境こだわり米」の販売が直接的かつ継続的に消費に結びつくよう、対象となる米袋にシールを貼付し、懸賞キャンペーンを実施した。

2. 内容

【対象商品】

環境こだわり米 精米 5kg 以上

【シール貼付期間】

平成 30 年 8 月下旬～平成 30 年 12 月 31 日

【応募期間】

～平成 31 年 1 月 31 日（当日消印有効）

【協力米卸業者・直売所】

(株)神明、(株)パールライス滋賀、全農パールライス(株)、(株)京山、(株)トウバン、津田物産(株)、幸南食糧(株)、伊藤忠食糧(株)、阪神米穀(株)、(株)名古屋食糧、(株)むらせ道の駅あいの土山、道の駅あぢかまの里、JA グリーン近江 きてか～な、フレッシュハウス四季彩館、道の駅かがみの里、(農)産直びわみずべの里、ファーマーズマーケットおうみんち、道の駅藤樹の里あどがわ

【シール配布枚数】

・米卸業者⇒323,700 枚

・直売所⇒ 9,900 枚

計 333,600 枚

【応募総数】（暫定）

約 1 万通

【応募者コメント（抜粋）】

「環境にやさしい」はとても大事なことです。今後も滋賀県のお米を応援しています」
(兵庫県・女性)

「小さな子どもがいるので、なるべく農薬や化学肥料を使っていないお米を探していたところこのお米を見つけました！！このお米のように安全な物が増えて欲しいです。これからも安全なお米作りよろしくお願いします」(奈良県・女性)

「化学肥料や農薬を減らした米づくり！とてもいいと思います。私たちの体にも環境にも！安心して食べられます！これからも美味しいお米を届けてください！」

(愛知県・女性)

「おいしかったので、ふるさと納税でも買いました」(東京都・男性)

1. 生産振興

(1) 乗用型水田除草機の実演会開催

- 開催場所：草津、甲賀、東近江、彦根、長浜、高島の 6ヶ所（※下線は実証ほ）
- 参加人数：農業者、関係機関、団体 のべ 150 人以上
- 参加者の感想：機械の設定が複雑、苗の生育への影響が心配（新規農家）
従来作業機より欠株が少なく、作業速度速く、効果も高い（既取組農家）



(2) 安定生産に向けた実証ほ場および試験ほ場を設置

○実証ほの作業体系

	代かき 回数(実施日)	移植日	機械除草	
			1回目	2回目
甲賀市	2回(4/21、5/23)	5/26	6/3	6/10
東近江市	4回(4/29、5/11,20,26)	5/28	6/8	6/18
長浜市	3回(4/13、5/23,28)	5/28	6/5	6/15

健苗の育苗、適正な水管理、適期作業、
により、除草効果が発揮されれば 7 俵
/10a が期待される

試験および実証結果等をもとに「水稻のオーガニック栽培の手引き」を作成

(3) 水稻のオーガニック栽培研修会の開催

- 開催日：平成 30 年 12 月 19 日
- 開催場所：男女共同参画センター（近江八幡市）
- 参加人数：農業者、関係機関、団体 のべ 130 人
- 講師：NPO 法人 民間稲作研究所 稲葉 光國氏



(4) その他

- ・有機 JAS 現地検査員の育成研修会の開催
（6名の指導者・検査員候補を育成）

・平成 31 年産オーガニック農業（水稻）の作付拡大意向調査

- 調査対象：有機農業に取り組んでいる農業者および関心のある農業者
- 調査結果（有効回答 83 件）
 - ・販路が有った場合オーガニック農業（水稻）の作付拡大意向を持つ者は 32 経営体
 - ・作付拡大意向を持つ者の作付拡大可能面積の合計は約 43ha
 - ・作付拡大に伴う推定生産量は 153t。内、有機 JAS 対応可能量は 74t

2. 市場調査および販路の開拓

(1) オーガニック EXPO 等への出展

名称	会場	開催日
国際オーガニック EXPO	パシフィコ横浜	8/30(木) ~9/1 (土)
オーガニックライフスタイル EXPO	東京国際フォーラム	9/22(土) ~9/23 (日)
オーガニックフード EXPO in 関西	インテックス大阪	10/23(火) ~10/25 (木)
健康博覧会 2019	東京ビッグサイト	1/23(水) ~1/25 (金)

来場者数：約 2～3 万人（各会場）

出展ブースへの訪問者数：4 会場でのべ約 900 人

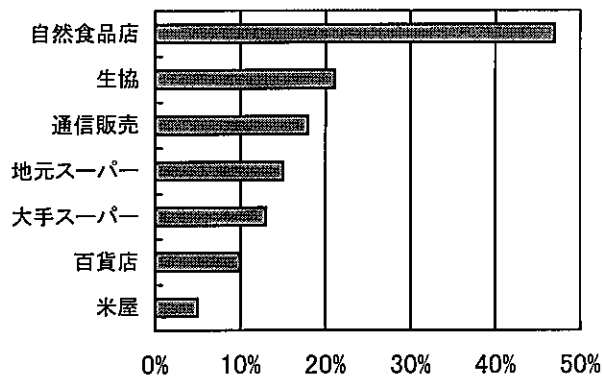
情報交換を行った団体数：4 会場でのべ約 160 人



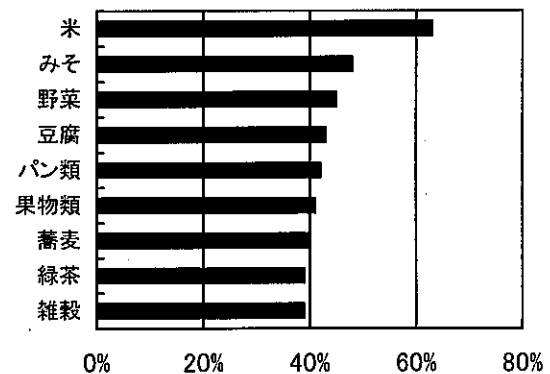
関係団体と連携し米卸売事業者や生協、専門店等への販路開拓に向けた調整を継続

(2) 来場者アンケートの実施 (N=120)

①オーガニック米の購入先



②オーガニック農産物の購入希望



(3) オーガニック玄米パックライスの試作

目的：オーガニック米の流通において、精米日を起点とする日数の経過に伴う処分（割引販売）が課題となることから、対策の一つとして加工品の販売を検討

試作品：オーガニック玄米を有機 JAS 認証取得工場でパックライスに加工（160g/パック）

試食数：約 500 人（健康博覧会）

評価：甘味があって美味しい。玄米のシャキシャキ感はある。玄米感はまだある。

もちもちしてる。パサパサ感がすくない。食べやすい。香りが良い等 概ね好評

需要：いくつかの卸売事業者より納入価格の提示が求められている。

3. ブランド化

○統一デザイン作成：オーガニック近江米の米袋デザインを作成し、平成 31 年産米で商品化を目指す。